

# 進路だより

箕輪進修高校 進路指導室

2010.4.19

No. 6

## 卒業後も卒業時の成績が問われる！



先日地元のある企業より、数年前に本校を卒業した生徒のことで問い合わせがありました。この卒業生は再就職でこの企業を受験しようとしているようですが、企業の方がこの生徒の成績の概要を教えて欲しいとのことでした。勿論個人情報ですので、本人からの依頼がない限り学校として安易な回答は出来ませんのでその旨をお伝えしました。同時に「出来るだけ現在の本人の様子を見てご判断いただき、何とか採用いただきたい」旨をお話ししました。

皆さんにとっての学校の成績は、学生時代だけのものと考えていると思いますが、何年か経ち再就職等の際に学生時代の成績証明書の提出が求められることがあります。外に出して恥ずかしくないものであれば結構ですが、卒業して何年か経っても学生時代の成績で自分の進路が左右されるのはいささか引がかかるかもしれません、それが世の中の現実です。

卒業年次生にとっては、今年の夏までの成績が進路先に報告されます。企業等によっては卒業時の成績を再度来春になり提出が求められるところもあります。今年は是非こうした意味も含めて外に出しても恥ずかしくないような結果が出せるよう、日々の学習にしっかり取り組みましょう。



## 進路選択とは

今年はいよいよ自分の進路を決めなくてはならない年です。人生の中でも一つの大きな節目の年です。しかし就職か進学かは決められても、具体的にどのような進路をとったらよいかを決めることは現実には中々難しいことです。小さい頃より夢を追いかけて来た人ならばいざ知らず、多くの人にとって、そもそも自分がどのような分野に向いているかは中々判断が付かないものです。仮に分かったとしても、多くの大人も自分が本当にやりたかった仕事に就けている人はごくわずかでしょう。

自分がやりたいことがはっきりしている人は一見すると良いように思えても、一面問題もあります。まだ経験の少ない皆さん達くらいの年頃で、すでによほど優れた才能が発揮されているなら別ですが、何となく一つのものに限定的にこだわっても本当にその分野に向いているのかはまだ未知数でしょう。私が若い頃担任をした生徒で映画が好きだから映画の道に進みたいとしてその分野の専門学校に進みました。しかしその後本人から現実の厳しさを手紙で知らされたことがあります。社会経験の少ない若い時の思いこみは一面危険でもあります。すでに目標を持っている人は、思い込みによる間違いを防ぐためにも、もう一度幅を広げ客観的に検討し直す柔軟さが必要でしょう。

まだ目標が定まっていない人は、そもそも自分はどんなことにやりがいを感じているか。得意なことと苦手なことは何か、まずそこから自分に問いつめて下さい。せめて自分はどのようなことに向いているのかくらいははっきりさせて、これから様々な情報を集めながら、検討をしてつめていってください。一番いけないのは、十分な検討をせずに安易に決めてしまうことです。まず自分をよく見つけ、自分にとって何がふさわしい仕事なのかを自分で考え、納得して決めた進路であれば我慢が出来ます。しかし、安易な選択をしたものは、すぐに嫌になり、コロコロ職を変えるということになりかねません。進路選択では決めるまでのプロセスが大切です。親や先生達とよく相談しながら、自分なりにじっくり検討してそれぞれにふさわしい進路が決められることを願っています。